

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.92 2023.3.17
 発行 寝屋川市自然を学ぶ会
 会長 山田 晃
 事務局 寝屋川市高宮 1 丁目 7-9
 千田正喜 宅
 ☎ 090-4036-0719



みえるかな？ 打上川治水緑地の冬鳥の観察 2023.1.15

うさぎさんがきてね

うさぎさんが きてね
 おなまえ つけてと
 いいました
 ピョンタちゃんと つけたら
 ピョンと はなて
 うふんと わらって いきました

まどみちお

すずめさんが きてね
 おなまえ つけてと
 いいました
 チュンコちゃんと つけたら
 チュンと ないて
 うふんと わらって いきました

まどさんの詩の本「あのうたこのうた」理論社

目次

- (2) 前会長足立堯さんを偲んで
- (3) 行事報告 1 第7回自然観察会 打上川治水緑地の野鳥
- (4) 行事報告 2 みんなの掲示版④ 淀川の野鳥
野活・協働活動 自然観察と環境整備④
- (5) 行事報告 3 第23回展示会 学ぶ会の展示と会員の出展
- (6) 行事報告 4 第23回展示会 関係団体の出展とトピックス
- (7) みんなでつくる自然教室だより
子ども自然シリーズ 講座 凧と羽子板・パズル
大人自然シリーズ 講座 野鳥・えさ台づくり
スタッフ研修 参加協力行事
- (8) 私の自然観察 身近な昆虫(40)「ビロードツリアブ」
- (9) 自然はすばらしい 植物シリーズ(40)「ヨメナ」
山菜摘みのモラル
- (10) 自然界のふしぎ 火山のふしぎ④「水蒸気爆発」
- (11) 図書紹介 「貝のふしぎ発見」
絵手紙、新会員紹介
- (12) 行事予定 2023 年度総会・記念講演
自然観察会 ⑧私市植物園
みんなの掲示版 丹波「恐竜・カタクリ」
自然観察会 ①東部丘陵 ②淀川背割り地区

足立堯前会長を偲んで



昨年から体調を崩され入院されていた前会長足立堯さんが、本年1月9日に88歳の人生を閉じ永眠されました。

23年前の平成11年4月本会発足以来15年にわたり、本会会長としてご活躍いただき、本会の数々の実績を積み上げていただきました。その功績は寝屋川市からも、大阪府からも、また環境省からも認められ表彰を受けました。

地球環境が大きく変貌し、環境保全や環境教育の大切さを叫ばれる中、足立堯さんにはこれからも適切なご指導を頂かなければと思っておりましたのに、訃報に接したことは極めて残念で痛恨の極みです。

前会長足立堯さんの人となりや活動を少しですが、偲びたいと思います。

□ いつも「優しいまなざし」をありがとう!!

～子どもたちの活動を大切に～

自然観察会や子ども自然シリーズ講座でもいつも子どもたちの活動に目を向け、一緒に活動したり、アドバイスをおくったりその姿はいつも子どもたちを思う「優しいまなざし」でした。



フェットエスポアールで



自然シリーズ講座で

□ 時と場を踏まえた「挨拶上手!!」

～楽しく誰でも気軽に

参加できる会に～

会長としてのあいさつの場は沢山ありました。総会の初めの挨拶は勿論、会議でも、観察会などの行事でも急な機会になっても、いつもその時その場にあっさり的確な挨拶は見事でした。

□ 身近な里山にも自然がいっぱい

～自然塾で広く市民に～

寝屋川市自然資料スタッフの会代表としても活躍いただきました。市内の身近な自然の観察から自然の見方やしくみについても優しく語られました。寝屋川市の市民大学で講義をされましたが、自ら編集委員長をされた「わたしたちのまち『寝屋川の自然』」をもとに語られ、多くの方から共感を呼びました。

□ 自然に親しみ、環境の保全を!

これからの活動について ～本会20周年記念号から～

20年間の活動を土台に、これからも自然観察を通して個々の生き物に親しみを続けましょう。その中で自然をどういう視点で観るかということを学ぶことで自然のしくみや生命の営みを理解することが大切です。そしてお互いに自然環境を保全する意識を高めることが本会の担う役割ではないでしょうか。

引き続き本会のさらなる充実発展を願って、会員の皆様の活動に期待いたします。



市長室で

足立堯さんのご冥福を祈り、足立堯さんの築かれた土台をもとにみんなでこれからも頑張りましょう。

(山田 晃・渡辺 俊之)

第7回自然観察会 野鳥 (打上川治水緑地・新宮池)

1月15日(日) 参加者37名

なぜか「コアジサシ」??

中井 新一



観察の様子

例年通りスタート地点からカモ類の観察をしていきました。何気なく空を見上げた時、2羽の「コアジサシ」が西の方から東の方へ飛んで行くのが見えました。夏鳥の「コアジサシ」がなぜ? 私の他にも2名の方が目撃して不思議がっていたので、見間違いではなかったと思います。もちろん、この観察会では初めてです。毎年5月頃には数羽の「コアジサシ」をこの場所で見ることができ



コアジサシ

のですが、冬のこの時期に現れるのはとても珍しいことです。これも温暖化の影響かな?と、ちょっと心配でもあります。

他にも、ここの観察会で初めて観察できた鳥があります。「キンクロハジロ (♀1羽)」と「アトリ」です。「アトリ」は「カワラヒワ」の群れに混じっていましたが、今年 寝屋川市近辺のあちこちで見かけられ 当たり年のようです。



キンクロハジロ (♀)



アトリ

他には、イソヒヨドリ、カワセミ、タシギ、ジョウビタキ、メジロなど32種類の野鳥が観察されました。子どもたちが11人も参加してくれてよかったです。



鳥あわせ



カワラヒワ



イソヒヨドリ



カワセミ



タシギ



メジロ

カワセミやキセキレイが！！



観察の様子

風もなく、冬の穏やかな日で絶好の観察日和に、初めての方も数人おられ、たくさんの参加がありました。篠田さんと中井さんの案内で進められました。中井さんから「大声を出さない」など観察における注意事項を聞いた後、歩き始めると頭の上にはトビがゆったりと飛んでいました。集合場所から少し下流や観察池で、キンクロハジロやオカヨシガモ・オオバンなどを観察しました。天野川の河口付近では、キンクロハジロ・オオバン・ヒドリガモ・ホシハジロがたくさん見られ、コサギ・アオサギ・セグロセキレイが存在をアピールしていました。黒田川放水口ではいつものようにたくさんのオオバンが。川の中ほどではカワアイサのつがい。少し歩くと、カワセミが！青とオレンジのきれいな姿を見せてくれました。私は何回も参加する中で初めて出会いました。

川辺から離れ、木々の中を「エナガが見たい」と母親に話しながら歩いている子どもが見つけて喜んでいました。また、「赤い鳥がいたよ」という言葉に、周りの大人が確認できず、そのままになっていましたが、終了後、ベニマシコを発見。子どもの目もすごいですね。磯島野球場から戻り、天野川の河口付近でキセキレイが橋のたもとに、横の草原ではモズが観察できました。他にホオジロ・カワラヒワ・コゲラなど、44種も確認できました。淀川は種類が多いですね。



トビ



オカヨシガモ



♂ カワアイサ ♀



カワセミ



キセキレイ



モズ

野外活動センターとの協働活動

□第4回自然観察と環境整備

2月7日(火)

参加者 19名

朝は冷えましたが、作業をしていると汗ばむ気候となりました。午前中は、樹木調査、蛍広場への階段の掃除、蛍広場の北側の石垣の間に生えた木や草の除去、昼食の調理に分かれて作業をしました。前回より行っている、石垣の木や草の除去がほぼ終了し、きれいになった石垣に満足。楽しみのは、手羽元の入ったカレーシチューと大根サラダをおいしくいただきました。



あそこにおシドリが！

午後は、室池園地で野鳥や植物の観察を行いました。「自然塾で来たことあるな」とか言いながら、オシドリ・ヨシガモ・キンクロハジロ・ホシハジロ・マガモなど観察できました。オシドリはたくさんいましたが、遠くの方だったのが残念でした。



石垣 きれいに！

第23回(2022年度)展示会『私の自然観察』から

今年も興味ある展示会になりました!

コロナの感染拡大が収束に向かう兆しが見える中、今年度の展示会は1月27日(金)～30日(月)までの4日間、アルカスホールのギャラリーで開催することができました。

会員の皆さんの出展「私の自然観察」と、関係機関・団体からも例年通り出展していただきました。本会の2022年度の取り組みも含めて、寝屋川市と近辺の自然に関わる様子や活動など多くの市民、関係団体の皆さんにご覧いただくことができました。

親子でゆっくりと参観される方や、スタッフに展示内容について質問される方もあり、楽しい興味ある展示会になったのではないかと思います。

ご協力いただいた皆様に感謝します。



親子で鑑賞

(1)寝屋川市自然を学ぶ会の出展

□2022年度の活動

- ・ 定例自然観察会・みんなの掲示板・子ども自然シリーズ講座
- ・ 会報の発行・展示会・寝屋川市野外活動センターとの協働活動
- ・ 寝屋川市自然資料施設への協力・その他協力活動、他団体との連携

□分野別記録

◇定例自然観察会

- ・ 東部丘陵・枚方・深北緑地(昆虫・どんぐり)・打上川治水緑地(冬鳥)・私市植物園

◇みんなの掲示板 : 宇陀・中池見・交野河内森・打上川治水緑地・当尾の里

◇子ども自然シリーズ講座・参加と協力活動・自然資料施設運営への協力

◇自然関係図書 : 寝屋川市の自然など

◇木の実 : どんぐり20種、その他の木の実74種

- ◇配布資料
 - ・ 本会活動紹介の葉・会報88～91号・当面の行事予定
 - ・ 身近なガイドブック第3～7編(実費配布)

(2) 会員の出展「私の自然観察」

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①どんぐり工作〈作品31点〉 | ⑫寝屋川市と周辺で観察された野鳥〈写真4点〉 |
| ②楽しいどんぐり工作〈15点〉 | } ⑬私の自然観察〈写真6点〉 |
| ③窓から見る自然もおもしろい〈写真4点〉 | |
| ④海南地方の石〈実物1点〉 | } ⑮水仙の花とアズノの枝〈オブジェ〉 |
| ⑤野鳥など淀川の自然観察〈写真8点〉 | |
| ⑥板絵—日本各地うさぎ〈15点〉 | } ⑰タイルアート—虹のかかる家他〈2点〉 |
| ⑦巻絵と木のチャーム〈額2面〉 | |
| ⑧木のチャームのひな飾り〈7段飾り1点〉 | } ⑲ひょうたん工作—うさぎ〈1点〉 |
| ⑨野に咲く花「爛漫」〈2面〉 | |
| ⑩会員みんなの散歩道〈冊子1冊〉 | } ㉑打上川治水緑地のカワセミ |
| ⑪秋の淀川の野草〈写真27点・冊子1冊〉 | |

(3)関係機関・団体からの出展



- ①寝屋川市環境総務課；自然環境に関わる行事記録他
- ②寝屋川市立中央図書館；親子で楽しむ科学遊び〈10円玉と梅干し他〉
- ③寝屋川市野外活動センター；施設・事業紹介・パンフレット
- ④寝屋川公園；公園の紹介、四季の活動、イベント紹介・散歩コース・パンフレット
- ⑤寝屋川公園・自然の会；活動紹介、野草料理、蟬の観察、凧作り他
- ⑥深北緑地；活動紹介、綿づくり、野鳥観察、蓮根堀体験・パンフレット
- ⑦北河内自然愛好会；活動紹介、北河内の最近の野草他
- ⑧ねや川水辺クラブ；自然や水辺の市民活動、イチョウ祭他
- ⑨水辺に親しむ会；活動紹介、幹線水路の魚類相の記録、会報他
- ⑩淀川管内河川レンジャー；点野水辺づくり、淀川水系一斉美化アクション他
- ⑪摂南大学 PBLプロジェクト；活動内容の紹介、環境学習支援他
- ⑫生物多様性センター；センターの業務・施設・場所、パンフレット他
- ⑬ビオトープ田原里山の会；活動内容、施設紹介、下田原の四季他
- ⑭寝屋川市自然資料施設運営スタッフの会；活動内容の紹介

展示会トピックス

① 野草の絵「爛漫」

新 恵子

自然の楽しみ方もいろいろあります。新さんは、アレンジして描きためて歌を読んで楽しまれています。



今回の展示会で、参観者の皆さんから「細かいところまで上手に描かれて楽しいですね」と注目を集めていました。春の七草についてこんな歌も作っておられます。

「野を遠く パックに詰められ 店頭に 何思いいん 春の七草」

② 楽しいおみやげ

～深北緑地からは綿の種～

展示会では、展示をご覧いただいた方におみやげがありました。本会からは木の輪に描かれたチャーム、手づくりの6枚羽根の風車や、木の葉の葉を用意しました。



深北緑地の綿栽培

他のコーナーでは魚の大きなポスターや楽しい魚や鳥の写真と名前が入ったファイルもありました。深北緑地の展示のところでは、昨年の5月から9月にかけて取り組まれた綿栽培の展示と、収穫された綿の種が置かれていました。親子で見学された方が、「私達も綿栽培にチャレンジします」と綿の種のプレゼントを手にされていました。



綿の種

みんなでつくる自然資料室だより

□子ども自然シリーズ講座

⑩「凧と羽子板作り」 1月7日(土)

参加者 33名 (内子ども 15名)

はじめにお正月の遊びと、凧と羽子板のいわれについての話を聞きました。凧作りと羽子板作りに分かれ、スタッフや大人の



和紙に絵を描いている

方に教えられ完成させました。

作った凧と羽子板を持って、桜小学校の校庭で思いっきり遊びました。

⑪「パズル作り」 3月4日(土)

参加者 36名 (内子ども 16名)

のこぎりや金づちを使ってのパズル作り。初めて使う子どものため、注意することのその後、工作に挑戦です。少し躊躇していた子が



ムズイ!

がだんだん上手になっていきます。完成させた後、実際にビー玉を動かして楽しみました。

「難しかったけど、楽しかった」

□大人自然シリーズ講座

⑨「身近な野鳥」 1月12日(木)

参加者 17名

この講座は、1年を通して近くの公園・緑地や淀川などに出かけられている中井さんのお話です。録音された鳥のさえずりを聞き、鳥についての思いを語られました。最後に、これから実施される打上川治水緑地・寝屋川公園と淀川の紹介がありました。



講座の様子

⑩「えさ台作り」 2月17日(金)

参加者 11名

冬はエサが少ない時期なので、少しのスペースでも置ける「えさ台」を作りました。短時間で組み立てられるように部分ごとに切り分けた板を紙やすりで整え、釘で組み立てます。完成後、鳥によるエサの好みの紹介がありました。

「夏場はエサを与えない」注意事項です。



これでいいかな

□自然資料室スタッフ研修会

「鶴見緑地」 2月3日(金) 参加者 15名

～咲くやこの花館の見学・冬鳥の観察～

午前中は、咲くやこの花館で見学。節分の日に、セツブンソウの花が見られグッドタイミング。昼からは野鳥の観察。大池ではホシハジロ、キンクロハジロなど間近で観察でき、32種の野鳥に出会いました。花や野鳥を見たり、おしゃべりしたり楽しい1日でした。



セツブンソウ

参加・協力行事

「東図書館」 1月8日(日) 協力者 3名

～お正月を楽しもう～

市民会館の中にある東図書館でこまの色付けとやじろべえ、どんぐりペンダントの工作をしました。他のブースでは、輪投げや紙相撲、だるま落としなど子どもたちが色々楽しめるようになっています。予約で来た多くの親子が、楽しみました。



できました!

私の自然観察**身近な昆虫 40.**
—ビロードツリアブ—

高本 憲二

陽射しが暖かく草花も咲き始め、野山を散策するにはとても良い時候になりました。先日、いつもの天王の里山で竹林に続く小径を歩いていると、黄金色のふさふさの毛にくるまれた虫が葉っぱの上で日光浴をしていました。この虫は全身ふさふさのぬいぐるみのような姿をしていて、アブの仲間のビロードツリアブといます。



ビロードツリアブは、平地から低山地の雑木林や草むらなどに生息し、草花のよく茂る日当たりのいい公園などでも見られます。頭部から胸部、腹部までビロード状のふさふさの黄褐色の毛に覆われていて、成虫は春先の短い期間にだけ見ることができます。先端の尖ったストロー状の細長い口を持っていて、飛びながら花の蜜を吸うことができます。この時同じ位置で飛び続けるホバリングの状態であることが多く、空中に吊られているように見えることから「ツリアブ」の名がついたようです。

幼虫は、土中に巣を作るヒメハナバチの仲間の幼虫やサナギに寄生するそうです。

暖かい日に山際を散歩していると、道端のスミレやオオイヌノフグリなどの早春の花の周りを軽快に飛び回り、ホバリングしながら長い口吻で吸蜜する姿や、枯葉の上で日向ぼっこする姿をよく見かけます。

この会報が皆さんのお手元に届くころ、ビロードツリアブが一番活発に活動する時期になります。さあ、野山に出かけてこの愛らしい虫を観察してみましよう。



交尾中のビロードツリアブ↑

ビロードツリアブ : *Bombylius major* ハエ目 ツリアブ科

自然は素晴らしい 植物シリーズ 40. ヨメナ 花期 7~10月 山菜摘みのモラル

本多 政雄

キク科、ヨメナ属 *Kalimeris* (カリメリス) 本州中部以西、四国。九州に分布する多年草。青紫色の花が咲く、いわゆる野菊のひとつ。ただし『野菊の墓』の野菊は分布上からはこれではない。関東以北の暖帯には、よく似たカントウヨメナが分布するが、これは一般には食べない。

昨年の9月末から『身近な自然ガイドブック秋の淀川』の編集に入り、年末の編集会議に何とか初稿を出すことができました。今年は正月から『ガイドブック資料編』編集に入り、現在進行中です。ガイドブックの最後に取り上げた植物がヨメナでした。

ヨメナは身近な植物なのに『自然は素晴らしい 植物シリーズ』では取り上げていませんでした。今回はヨメナについての理解を少し深めてみましょう。

山菜としてのヨメナは古くから知られていました。少し塩を加えた湯でゆがき、かたく絞って細かく刻み、炊き上がったご飯に手早く混ぜ、しばらく蒸らします。ヨメナ飯です。立ちのぼる香りがいいです。ヨメナ、ヨモギ、セリなどは香りの強い春の新芽が最高です。

「春日野に煙立つ見ゆ娘子(おとめ)らし 春野のうはぎ摘みて煮らしも」『万葉集』 (1879)

春の若菜摘みの光景です。うはぎ(おはぎ)はヨメナの古語。娘たちがヨメナでも煮ているのだろうか。ガールハントに出かけようという歌でしょう。

ヨメナは古代からずっと人里近くの、身近な食用野草として利用されてきました。山里に隠棲(いんせい)した鴨長明も「野辺のおはぎ、峰の木の実、わずかに命をつぐばかりなり」と『方丈記』に書いています。

ヨメナは大陸から朝鮮半島を経由して日本に入ったオオユウガギクと、中国中南部から入ってきたコヨメナが九州で交配してできた雑種起源とされ、それが稲作の拡大にともなって東の方へ広がったといわれています。だから生育地は田畑の周りや人里周辺の湿った



場所なのです。地下茎を伸ばしてどんどん殖えます。摘むと後からつぎつぎ新しい芽がでるのです。このことも日常の食用野草として重宝された理由でしょう。よく似た草にノコンギクがあります。「同じように食べられる」と書いた本もありますが、香りも舌触りもちがうのです。くべつの決定打はノコンギクの果実には立派な冠毛がありますが、ヨメナの冠毛は痕跡程度ということです。冠毛はタンポポの綿毛のように種子を風で飛ばすもの。だからヨメナの種子は散布力が弱いのです。最近ヨメナが減った原因は色々あると思いますが、そのひとつはそこにあるようです。一旦消えると、なかなか復元しないのです。

ただし葉を食べる春には花はありません。葉の手触りと香り、つまり体の五感を動員してヨメナを覚えるしかないのです。

山村では山菜摘みを副業にしているところもあるし、ヨメナのように地下茎で繁殖する植物もあります。自然の恵みを毎年受けるには、自然の再生産の枠を守れというモラルをまもらなければなりません。

「自然は素晴らしい 植物シリーズ」10年続けました。切れ目になるので今回で終了したいと思います。ありがとうございました。

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「ダーウィンと化石1～4」に続いて、今年度は「火山のふしぎ」をお届けしました。

火山のふしぎ ④ 水蒸気爆発

西村 寿雄

今回は火山では恐ろしい水蒸気爆発についてのお話です。

2014年御嶽山が突然噴火し逃げ惑う登山者が多数犠牲になりました。火山予知が進んだ今、なぜこんなことが起きるのでしょうか。普通、活火山ではマグマの動き(振動)を感知する地震計や傾斜計などでマグマの動きは把握されています。それで登山規制等がされます。それなのになぜ登山者もいる中で突然御嶽山が噴火したのでしょうか。

右の写真は、2012年に三宅島に行った時の写真です。

左は新鼻(につばな)という浜です。島の中央に噴火口がありますが、この時は島の横から噴火し、ちょうど海岸だったので水が沸騰して大噴火を起こしました。その噴火の跡です。



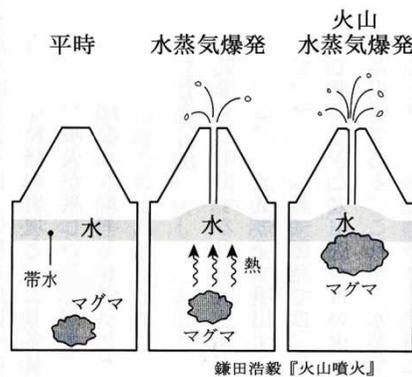
火山噴火が水辺で起きると水を沸騰させ水は水蒸気になって体積が急激に膨らみ大噴火を起こします。熱いマグマが水に触れると大噴火を起こすことがあるのです。これをマグマ水蒸気爆発と言います。

御嶽山は海辺ではありません。付近に水などあるようではないのです。しかし、御岳山には水がしみ込んでいました。たまっていた地下水が、上がって来たマグマの熱にふれ水蒸気爆発を起こしました。

これはやっかいなのは、静かに雨水はしみこんでいくので、火山情報の検知が難しいことです。いつも通り登山している人々の前で突然爆発をおこして大惨事になることも多いのです。過去には草津白根山等にもその例はありました。このような水蒸気爆発は小規模でも登山者がいる中なので被害が大きくなります。

こんな石があります。一見、流紋岩質の火山灰が固まった凝灰岩のようですが、よく調べてみると固くてガラスなどを含みます。これは水中で爆発して固まった火山の石なのです。湖の近くに火砕流(前回)が流れ込み、水と接触し爆発を起こした噴石が固まった石とされています。(高砂市・竜山石)

熱い溶岩、火砕流などが水の中に流れ込むと急激に冷やされ溶岩は激しく爆発的に破碎するのです。水蒸気爆発は〈第2の噴火〉と恐れられています。



鎌田浩毅『火山噴火』



竜山石

(おわり)

図書紹介

～こんな本が出たよ～

『貝のふしぎ発見記』

武田晋一/写真・文

少年写真新聞社

この本は「貝のふしぎ・・・」という所がいろいろと面白くするポイントになっている。貝は一般的に常用されている言葉で学術用語でもなく分類上の言葉でもない。そのずれがいろいろおもしろい。それにしてもよくもまあこれだけ集めたことだと感心する。



見開きに貝は「軟体動物です」と断りがある。従ってこれからは軟体動物として貝を見ていくことになる。著者はきれいな砂浜で見たアイオイガイが元で貝に興味をいだいて行く。アイオイガイはタコのように貝がらがついている面白い軟体動物だ。続いて普通のアサリが出てくる。模様はいろいろ。「アサリのおそうじ実験」というコラムが面白い。続いてマテガイ出る。岩場に穴をあけて住んでいるイシマテ、穿孔貝のいくつかも紹介される。次は真珠貝、これは実際にアコヤガイを養殖している現場を紹介している。たくさんの真珠貝が生産される。ぼちぼちへんてこな貝が出てくる。まずは石の中にくっついて離れない貝、岩にへばりつく貝、〈外とう〉をまとった貝、海辺でも陸に棲む貝などなど。

次は海の貝につづいて陸の貝が出る。おなじみカタツムリ、ここにあるコラムでは「カタツムリの渦は大きくなるにしたがって増えていく」とのこと。淡水の大型貝はなんといってもイシガイ、カラスガイ、これらはタナゴの産卵場所ともなっているが年々少なくなっている。ヒッチハイクさながらの貝もいるとか。ここでナメクジ登場。コラムを見るとナメクジもいくつかの種類がある。海に棲むナメクジもたくさんいる。ナメクジにも生まれた時は貝殻がある。飼育して観察していくとアメフラシは体内に貝がらを持っている。「ヒザラガイは貝なのか」も面白い。続いてクリオネが出てくる。「えっ、クリオネも軟体動物か」と認識を新たにさせられる。「イカだって貝、タコだって貝」なるほど。最後は、奇妙な姿のアオイガイの紹介で終わっている。貝もさまざま。小学校低学年から読める。

2022年6月 1,800円 <西村 寿雄>



作：内田桂子

新会員紹介
会員数171名
(3月17日現在)

長尾 一彦
(敬称略)

行事予定

□第8回定例自然観察会

私市植物園を散策

- ◇日時：2023年3月21日(祝・火)
9:30～12:00 雨天中止(午後は自由見学)
- ◇集合場所：大阪公立大学附属植物園正門前
- ◇持ち物：水筒、雨具、筆記用具、(弁当)
- ◇入園料：350円
*中学生以下無料・府内在住 65歳以上 150円
(年齢・住所を証明するもの：免許証等)
- ◇駐車料：500円

□第1回みんなの掲示板

兵庫県丹波市・

丹波竜発見地とカタクリ見学

- ◇日時：2023年4月4日(火)
- ◇集合場所：寝屋川市駅前庁舎(アルカスホール)前
午前8時30分集合
(帰着予定：午後5時30分頃)
- ◇持ち物：弁当、水筒、雨具、その他
- ◇交通：マイクロバス利用
- ◇参加費：5,000円程度
*参加申込みは3月末までにいずれかへ
中村清秀(090-8750-5738)
千田正喜(090-4036-0719)

□第1回定例自然観察会

東部丘陵を歩く

- ◇日時：2023年4月25日(火)
9:30～14:00 雨天中止
- ◇集合場所：JR寝屋川公園駅東口バスロータリー
- ◇持ち物：水筒、弁当、雨具、その他
- ◇丘陵地の春の野草を観察



タツナミノウ(東部丘陵)

□第2回定例自然観察会

淀川背割り地区

- ◇日時：2023年5月5日(祝・金)
9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合場所：淀川河川公園 背割り地区駐車場
京阪石清水八幡宮駅から徒歩約15分
- ◇持ち物：水筒、雨具、その他
(ゆっくりできる方は弁当も)
- ◇春の野草や昆虫を観察



オオバン、ホシハジロ、ヒドリガモ(淀川)

2023年度・寝屋川市自然を学ぶ会

総会案内

- ◇日時：2023年4月29日(祝・土)
- ◇場所：市民会館 2階 会議室
TEL: 072-823-1221
- 総会 10:00～
 - ① 2022年度 活動報告・会計報告
 - ② 2023年度 新役員選出
 - ③ 2023年度 活動計画・会計予算
- 記念講演 10:40～
～身近な自然ガイドブック第8編～
「秋の淀川」発刊から
講師：本多 政雄 さん
- 参加者の交流
自然に関わる話題を交流します。
みんなで楽しみましょう。
☆会員でなくても、関心のある方のご参加を歓迎します。
閉会 11:50

編集後記

2022年度の活動について、定例の観察会もみんなの掲示板の行事もほぼ予定通り進めることができました。展示会も4日間でしたが楽しく開催できました。ご協力ありがとうございました。会報92号では年度をまたぐ行事を紹介しています。ぜひみんなで自然観察などを楽しみたいと思います。